



▲取材でのひとコマ。モデルを務めた生徒会長と美術部のみなさん、川崎直広先生

5月23日、佐賀県高等学校スケッチ大会（佐賀県高等学校文化連盟主催）が、県内高校生480人が参加し、江北町肥前山口駅周辺で行われました。この大会では、特選15人、準特選30人、奨励賞108人が選ばれた中、多久高校からは準特選1人、奨励賞3人が選ばれました。

準特選 岸川真奈美さん（3年）
奨励賞 成富友香さん（3年）
中尾健人さん（3年）
大坪健三さん（1年）



▲美術部のみなさん

平成27年度
佐賀県高等学校スケッチ大会で
「準特選」と「奨励賞」

部長の新郷陸さんは「現在は総文祭作品のイメージを考えて取り組んでいます。一人ひとりが賞を取れるようがんばります」と今後の意気込みを語りました。

美術部の集大成となる「佐賀県高等学校総合文化祭」に向け、現在はクロッキーやデッサンで腕を磨いている部員のみなさん。8月から大作の制作に取り組んでいきます。



▲生徒会長をモデルにデッサンする美術部のみなさん

ふれあい書道展で

7人が「特選」

ふれあい書道展（全国書画展覧会主催）で、多久高校から7人が「特選」に選ばれました。部長の眞子史帆里さんと堤優衣さんは、昨年冬の「佐賀県高等学校臨書展」での「特選」に続く表彰でした。

特選 眞子史帆里さん（3年）

堤優衣さん（3年）

北村宇唯さん（2年）

牟田口珠里さん（2年）

山田遥華さん（2年）

青木侑花さん（2年）

円城寺千秋さん（2年）



▲書道部のみなさん

書道部のみなさんは、7月に開催される「佐賀県高等学校席書大会」に向け、日々練習に取り組んでいます。

部長の眞子史帆里さんは「7月の席書大会が3年生最後の大会だと思えます。しっかりと努力して、悔いの残らない素敵な大会にしたい」と大会に向けての抱負を語りました。

また、堤優衣さんは「これまでの練習の成果を発揮できるようがんばります」と意気込みを語りました。

「黙々と練習に取り組みます！」



▲佐賀県高等学校臨書展特選の眞子（写真左）と眞子（写真右）さん



多久高校を代表して ものづくりコンテスト出場

6月6日、佐賀工業高校を舞台に「第13回高校生ものづくりコンテスト佐賀県大会」が開催され、旋盤作業部門で多久高校を代表し、鶴勇樹さんが出場。健闘するも入賞には至りませんでした。

上位入賞を目指し臨んだ大会でしたが、緊張のため思うように作業ができず、焦りからバイトの刃が折れるアクシデントが発生。刃の取替えなどで時間を使ってしまう目標には届きませんでした。

ものづくりコンテストは、100点満点からの減点方式。工具の整理整頓も審査の対象で、1/100単位の誤差で減点されていく、かなりシビアなもの。

鶴さんは「結果には満足していませんが、この経験を将来活かしていきたい。機械系の職場に就職できるようがんばります」と今後の抱負を笑顔で話してくれました。



▲鶴さんが旋盤で加工した作品

▲鶴勇樹さんいつも練習していた多久高校の旋盤の前で

